

講義名	観光施設計画論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	山川 拓也		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング/2014年度 サービス産業学部		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

<p>主題と概要</p> <p>本科目は「観光施設」について取り上げる。「観光・旅行用語辞典」（北川宗忠編著・ミネルヴァ書房）によると、観光施設には宿泊施設、物販施設、飲食施設、案内施設といった観光客の利便を図る施設であったり、美術館や水族館といった鑑賞施設、テーマパークなどの娯楽施設が含まれ、いわゆる「ハコ物」と呼ばれる施設であることが多い。旅行の目的や観光対象として、これまでは「ハコ物」が観光施設の中核をなすことが多かった。しかし、一部を除き、近年は単体の経営が難しくなるケースも散見され、その対応として観光施設間での有機的な結合や連携が求められている。そこで授業では、地域内で増加の著しい「ゲストハウス」を一つの観光施設として捉えた仮想プランニング演習（グループワーク）に取り組み、そこからの応用展開として、地域における観光施設間の有機的な結合や連携、地域での観光施設計画の在り方について理解できるようにする。</p>

<p>到達目標</p> <p>授業の内容を踏まえ、地域における観光施設の有機的な結合や連携、地域での観光施設計画の在り方に関する基本的知識と理解を得る。そして、観光施設としての「ゲストハウス」を活用したコミュニティ・ツーリズムや観光まちづくりに関する気づきを得て、自らの考えによる提案や提言類が表明・説明できるようになる。</p>
--

<p>提出課題</p> <p>①毎回の授業終了時に提出を求める「リアクション・ペーパー」 ②プランニング演習で立案した内容に関する振り返りレポート（詳細については、授業の中で説明する） ③期末レポート（詳細については、授業の中で説明する）</p>
--

<p>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</p> <p>リアクション・ペーパーに記載された内容で解説等を加える必要があると判断したものは、授業の中で適宜フィードバックを行う。また、レポート類に関しては、オフィス・アワーを活用してフィードバックを行う。</p>
--

<p>評価の基準</p> <p>①プランニング演習で立案した計画の内容およびプレゼン発表： 40％ ②プランニング演習で立案した内容に関する振り返りレポート： 20％ ③期末レポート： 40％</p> <p>*欠席・遅刻・取り組み態度不良および類似する行為があった場合には、一定の基準のもとで減点される。 *「リアクション・ペーパー」の記述に優れた内容がある場合には、一定の基準のもとで加点される。 *①のプレゼン発表に関する評価は、本シラバスに添付の「発表用コメントシート」に基づく。 *②③のレポート評価に関する評価は、本シラバスに添付の「レポート評価ルーブリック」に基づく。</p> <p>上記の基準をもとにした総合評価とする。尚、正当な理由なき遅刻や早退、スマホなど電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語・睡眠・着帽の継続、教員の指示や指導に従わないなどについては、態度不良・授業妨害と判断する。また、課題としてのレポート作成において安易かつ不正なコピー＆ペーストを発見した場合、レポートの評価をしない。これらは上記の基準とは関係なく成績評価に重大な影響を及ぼすので厳に慎むこと。</p>
--

<p>履修にあたっての注意・助言他</p> <p>本科目では、全体の約半分をグループワーク形式によって進められることから、各自の責任ある取り組みが必須となる。したがって、グループワークを苦手とする学生については、最初から履修しないことを強く勧める。</p>

<p>教科書</p> <p>. 使用しない。</p>

<p>プリント資料及び参考文献</p> <p>プリント資料： 講義形式の際には講義レジュメを配布し、パワーポイントを使用して授業を実施する。 参考文献： 講義中に適宜紹介する。</p>
--

<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（科目ならびに授業の概要説明） 2. 観光施設の捉え方、観光施設としての「ゲストハウス」 3. ゲストハウスの実際－Ⅰ（ゲストハウス運営者による講話①） 4. ゲストハウスの実際－Ⅱ（ゲストハウス運営者による講話②） 5. 仮想ゲストハウスのプランニング演習－Ⅰ（主旨と内容の説明、グループ分け、アイスブレイク） 6. 仮想ゲストハウスのプランニング演習－Ⅱ（グループに分かれて、計画策定のためのディスカッション） 7. 仮想ゲストハウスのプランニング演習－Ⅲ（グループに分かれて、計画プレゼンテーションの資料作成） 8. 仮想ゲストハウスのプランニング演習－Ⅳ（グループに分かれて、計画プレゼンテーションの資料作成） 9. 仮想ゲストハウスのプランニング演習－Ⅴ（グループに分かれて、資料の最終調整と発表練習） 10. 仮想ゲストハウスのプランニング演習－Ⅵ（グループ毎による計画のプレゼンテーション、質疑応答、講評） 11. 仮想ゲストハウスのプランニング演習－Ⅶ（グループ毎による計画のプレゼンテーション、質疑応答、講評） 12. 観光施設計画の応用的展開－Ⅰ：地域の観光まちづくり事業との接続/株式会社宿場JAPAN 13. 観光施設計画の応用的展開－Ⅱ：地域の観光まちづくり事業との接続/イタリアの「アルベルゴ・ディフーズ」 14. 観光施設計画の応用的展開－Ⅲ：地域の観光まちづくり事業との接続/愛知県豊田市足助町 15. まとめ（地域における新しい観光施設計画の在り方）

<p>授業形態（アクティブ・ラーニング）</p> <p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>○ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>○エ：グループワーク</p> <p>○オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

<p>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>（予習：60分/回）「ゲストハウス」「コミュニティ・ツーリズム」「観光まちづくり」に関するメディア記事や文献等の情報を収集し、授業に向けた予習に努める。 （復習：60分/回）授業の内容（特に理論の説明）を整理し、周辺事例と照らし合わせるなどして理解に努める。</p> <p>尚、演習の際には、課題等への取り組み時間として授業の前後で各3時間ずつの時間を確保し、準備に努める。</p>

<p>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</p>

<p>実務経験の有無及び活用</p>

<p>備考</p> <p>定員制（選考有）で実施するので、希望者は教務部の指示に従って手続きを取ること。進捗状況によって、授業の進行方法や内容を変更する場合がある。履修希望者は、前期開講の「観光文化論」を受講しておくこと。</p>
--